

相手を素直に認めよう

信頼できる友だちはなかなか出来ないものです。これは、日常の会話に気を付けないといけない場合があるのです。相手の話をどのように受け止めていますか。素直に受け入れているでしょうか。

電車の中で耳にした会話です。

A「うちの息子、野球をやっているんだ。この間の日曜日に、隣の学校と試合をして勝ったんだ」 B「勝ったの。良かったね。ポジションはどこなの」 A「ピッチャーをしているの」 B「ピッチャーか。私も中学のときにピッチャーをしていて、県大会で優勝したことがあるんだ」 A「そうなんだ。それで息子は将来、プロになりたいと言っているのだよ」 B「それは無理だよ。県大会に出られても、誰もプロにはなれなかった。やめさせたほうがいいよ」 A「だけどね・・・」

この話はよく聞くようなやりとりです。内容はそのとおりで、Bさんの言うとおりのかもしれません。しかし、Aさんは何を言いたかったのでしょうか。Aさんの言いたい話はまだ出ていないのに、Bさんは自分なりに話を進めています。話の苦手な人なら、話すことをやめるでしょう。

Bさんは、私のほうがよく知っていると、結果的にAさんを低めているのです。これではAさんはおもしろくありません。この会話では、二人の間に感じの良い気持ちの交流はできません。相手の話を認め、尊重することです。

意識しないで、自分は先輩だ、よく出来る、よく知っているなど上の立場からものをいう人がいますが、気をつけないといけないでしょう。



クルミの雌花

私の受講生の話

自分を大切にしよう

ある介護専門学校で講義を聞いた受講生の感想文です。

・明るく、感じが良く、聞きやすい話し方をされる原先生が、学生時代は根暗で友だちもいなく、大人になってから「話し方」を学び、一から友だち作りをやり直したという話を聞いて、「話し方」が人の人生を大きく変える力を持っているのだと思った。

・私は、考え方が子供の頃から他の人とずれているようで、同じ説明を聞いても一人だけ違う解釈をしてしまっていた。仕事でも「どうして皆と同じように理解できないの？」と怒られることがよくあった。その度に「どうしていつもそうになってしまうのか」と悩んだり、怒られた原因がわからなかったりした。「自分はだめな人間だ」と落ち込むことも多かった。

・聞き手の決定権の話を知った。同じ説明を聞いても、まわりの皆がそれぞれ全く違う絵を描いているのを見て、自分を責める必要はなかったのではないかと思えた。

・正方形の図を数える問題では、4人の正解者のひとりだった。同じ間違いをしている人も多く、多数が必ずしも正しいとはかぎらないとの解説を聞いて、いつも少数派になってしまう自分に、少し自信を持つことができた。

この感想文を読んでとても嬉しく思ったのです。話し方を知ることにより、今まで悩んでいたことに対して、自信をもって、「自分は自分」と思い、前向きに考えることができるようになった人がいたことです。この人の人生が変わることを願っています。(原)

お詫び 4月の今月の言葉。後半のコラムのタイトルを「自分の経験は信用できる？」と訂正。

2014.5 s.hara

座る席を考えよう

大物と言われる人などが会談するとき、ソファを「ハ」の字型に置き、体が対面するようには置きません。セールスマンも商談するとき、お客様の真っ正面に座らないと言います。面と向かい、目と目があって話をすると、相手を緊張させ、リラックスした雰囲気の中で話を進められないからです。テーブルをはさんで座っても、話の途中に、出来ることならテーブルの横に座り、説明をしたりします。並んで座れるともっといいのですが、親しくないとできません。相手が女性だと気持ちに抵抗感が出て、警戒されることにもなります。

対面でないからといっても話をするので、必要なときには目を合わせることは必要です。楽しく会話をしているのでしたら、自然と目が合い問題はないでしょう。重要な話であったり、相手に信用してもらうためには、目を合わせることは大切です。「目は心の窓」と言います。自分の話を信用してもらうには、嘘でないのだと、目を合わせることで知らせるのです。こちらが、相手の意志を確認するにも、目を見ることは必要です。

相手とどんな話をするのかにより、席を考えましょう。キッチンとした話をするには、テーブルをはさんで話をするのです。楽しい時間をもつときは、ソファに並んで座り、飲み物を飲んで話をすれば、雰囲気もよくなります。



ヒマラヤの青いケシ

私の体験したこと

話し方の知識を深めよう

先日の朝、家の駐車場を通りかかった時、車の後ろのタイヤの異常に気が付いたのです。つぶれていました。昨日まで、普通に乘っていたのにどうしたことかと思いました。出かけるまでに時間があつたので、予備のタイヤと交換しなければと思いました。交換しなければ、タイヤを直しにも行けないのです。

それからが大変だったのです。交換する知識はありました。20年ほど前に乗っていた車のタイヤを交換したことがあつたのです。しかし、すっかり忘れていました。

予備のタイヤは、後ろの道具入れの下にあるはずと思っていても、工具箱がはずせません。後ろの座席を倒したりしてやっとの思いではずしました。ありました。ところがジャッキがはずせないのです。これも試行錯誤の末にはずしました。今度は、タイヤをはずすために、はめてあるホイールキャップがはずせないのです。

タイヤを変えなければ、直しに行けません。ホイールキャップははめこんであるだけだと考えていたので、無理矢理はずしました。その通りはめてあるだけでした。今度は、ボルトが固くて、タイヤが空回りするのです。外すのに難儀をしました。悪戦苦闘です。

工具箱もジャッキも爪で動かないように固定してあつたのです。なぜ、取れないのか後で調べましたらわかつたのです。これが分かっていたら、どうということはなく、スムーズに仕事が運んだのに、知らないで、なぜはずせないのだと頭の中は疑問だらけでした。できないのではないか。そのときはどうしたらよいかと大変な思いでした。

知っているのと知らないのでは、事の対処にえらい違いが出てきます。私は話し方での対処でも、そのことを考えています。スピーチの上達も大切ですが、もっと、人との対処方法も考えてみてください。対人関係がもっとスムーズにいき、人生が楽しく過ごせると考えているからです。

(原)